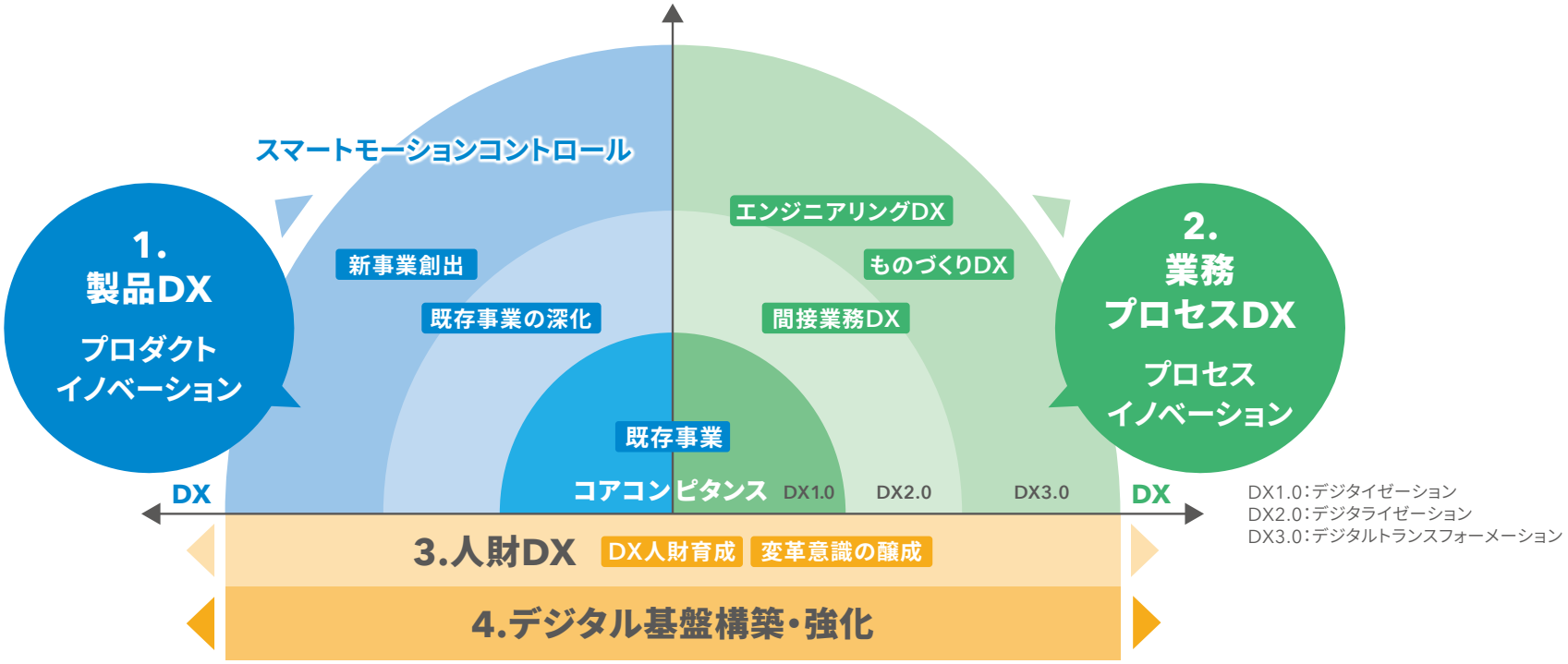
ナブテスコの中期DX戦略

製品、業務プロセス、人財 のDX推進により、イノベーションを創出！

取り組み

1. **製品DX**：現在のコアコンピタンスである「うごかす、とめる」に加えて、電動化、システム化、データ活用で「スマートモーションコントロール」を実現します。
2. **業務プロセスDX**：直接・間接部門でのデータドリブン、AI活用、業務変革によるスピード化・効率化・品質向上を実現します。
3. **人財DX**：DX推進に必要な人財育成・確保と変革意識を醸成します。
4. **デジタル基盤構築・強化**：DXを支えるデジタルインフラ、データ蓄積・分析基盤を構築・強化します。



ナブテスコ中期DX戦略の全体像

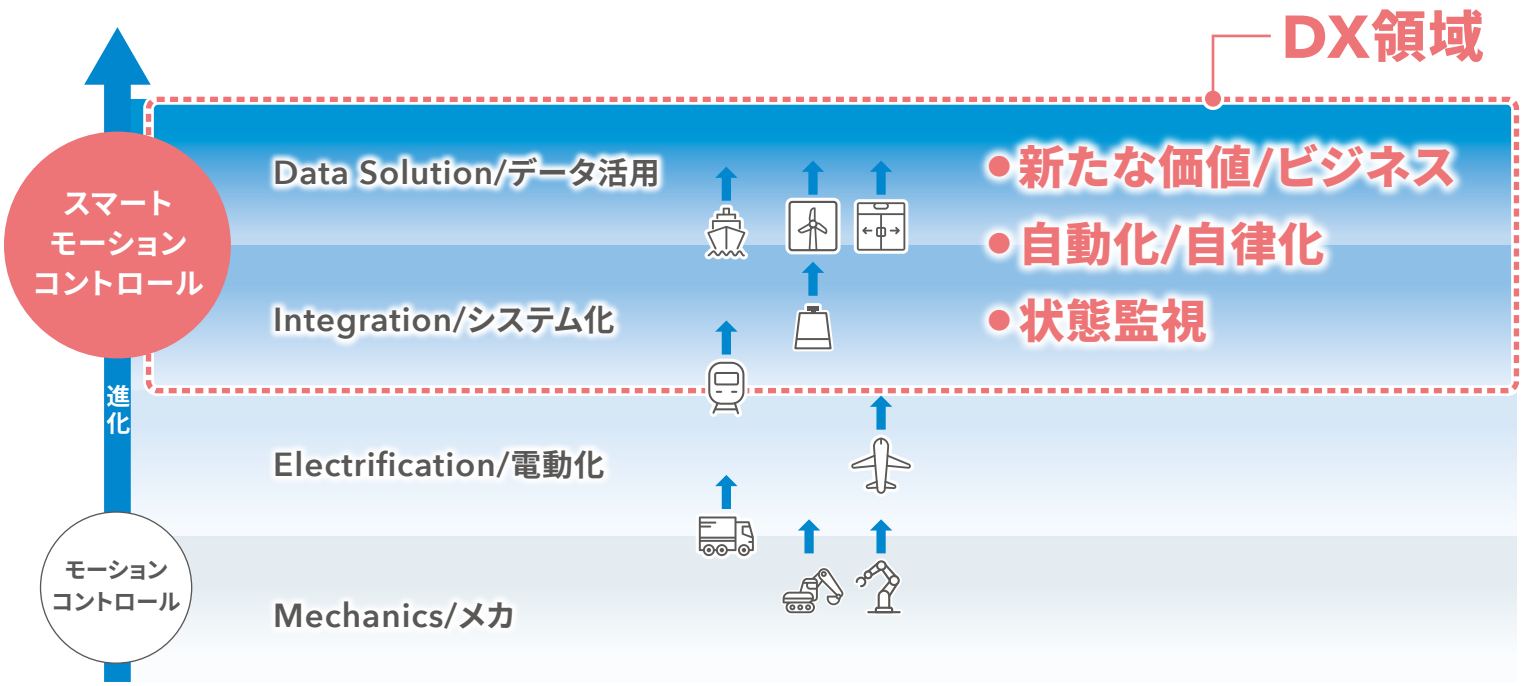
1. 製品DX（プロダクトイノベーション）

①新事業創出 ②既存事業の深化

現在のコアコンピタンスである「うごかす、とめる」に加えて、電動化、システム化、データ活用で「スマートモーションコントロール」を実現します。

- 従来のメカによる「うごかす、とめる」（＝モーションコントロール）に加えて、電動化、システム化、データ活用による付加価値向上
- メカ・コンポーネント中心の事業から状態監視、自動化/自律化へと事業を拡大
- さらに周辺データ組合せによって新たな価値/ビジネスを創出

モーションコントロールからスマートモーションコントロールへの進化



2. 業務プロセスDX（プロセスイノベーション）

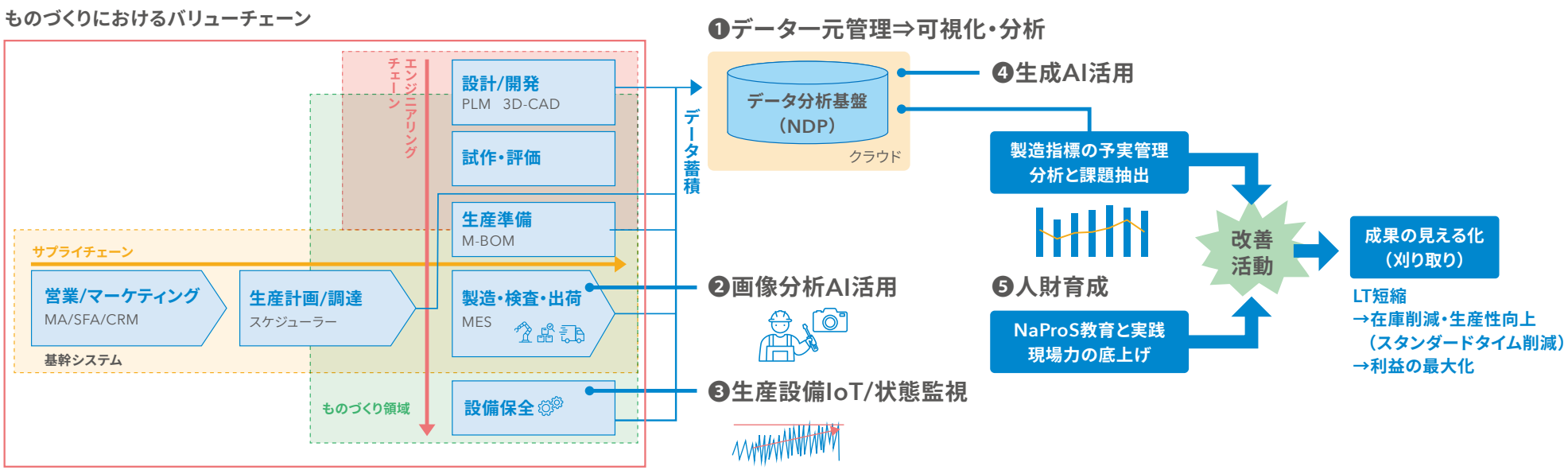
エンジニアリングチェーン全体のDXを推進し、高い顧客価値を提供するスマートモーションコントロール製品を高QCD開発パフォーマンス（高品質、低コスト、短納期）で実現します。

①ものづくりDX

各種システム（ERP、MES、PLMなど）導入が完了し、今後はシステム間連携、データ活用による成果刈り取りを目指します。

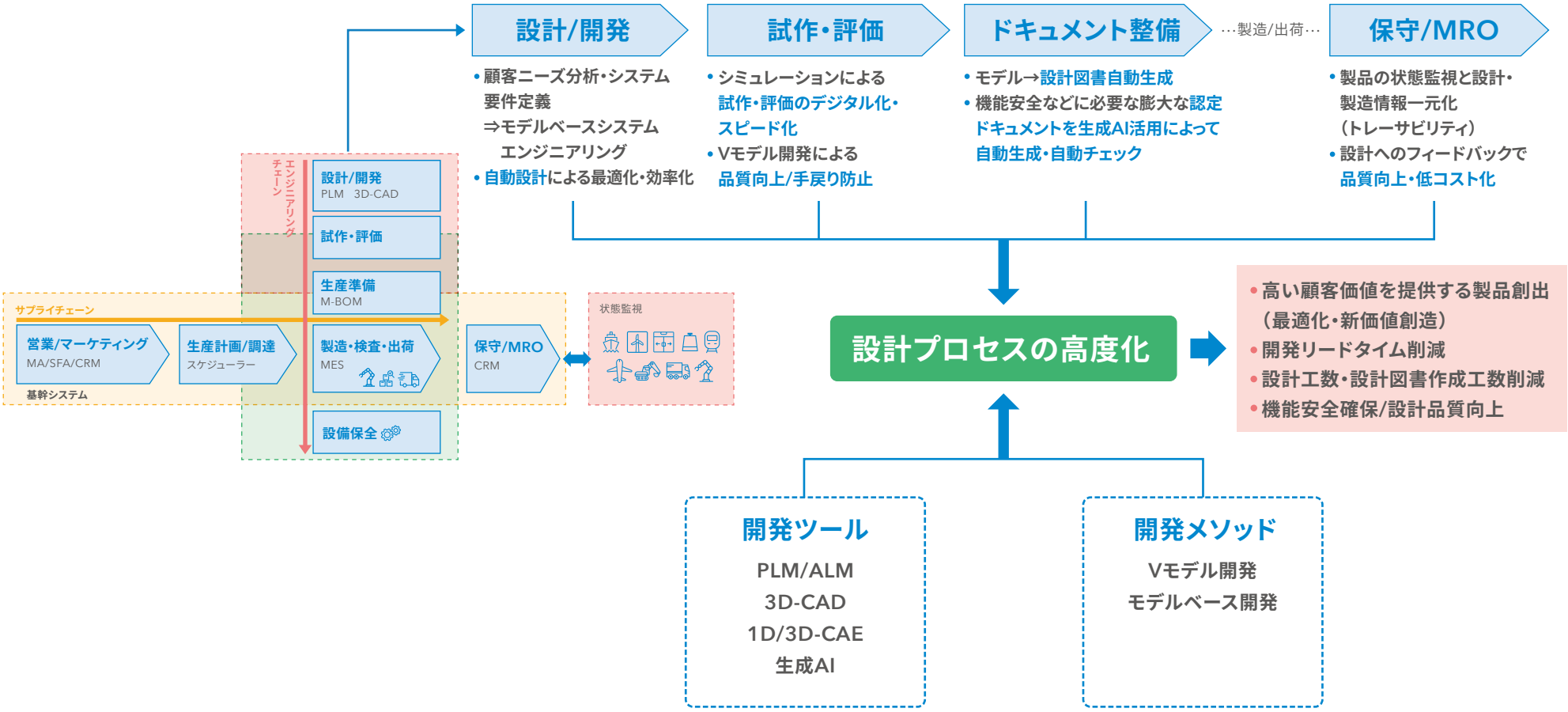
- 各種データの一元管理、可視化：製造指標の予実管理、課題抽出によりポイントを絞った改善実施 ➡リードタイム（以下、LT）短縮、在庫適正化、生産性向上
- 画像分析AI活用：検査の自動化、組立て作業の分析による品質向上、生産性向上
- 生産設備のIoT/状態監視：故障・予兆検知による保全効率化、設備稼働率向上
- 生成AI活用：生産ノウハウや設備保全ノウハウの伝承、トラブル対応迅速化
- 人財育成：NaProS※実践による改善・改革し続けられる人財を育成

※NaProS…Nabtesco Production System（ナブテスコ流ものづくりの目指す姿に向かう原則）



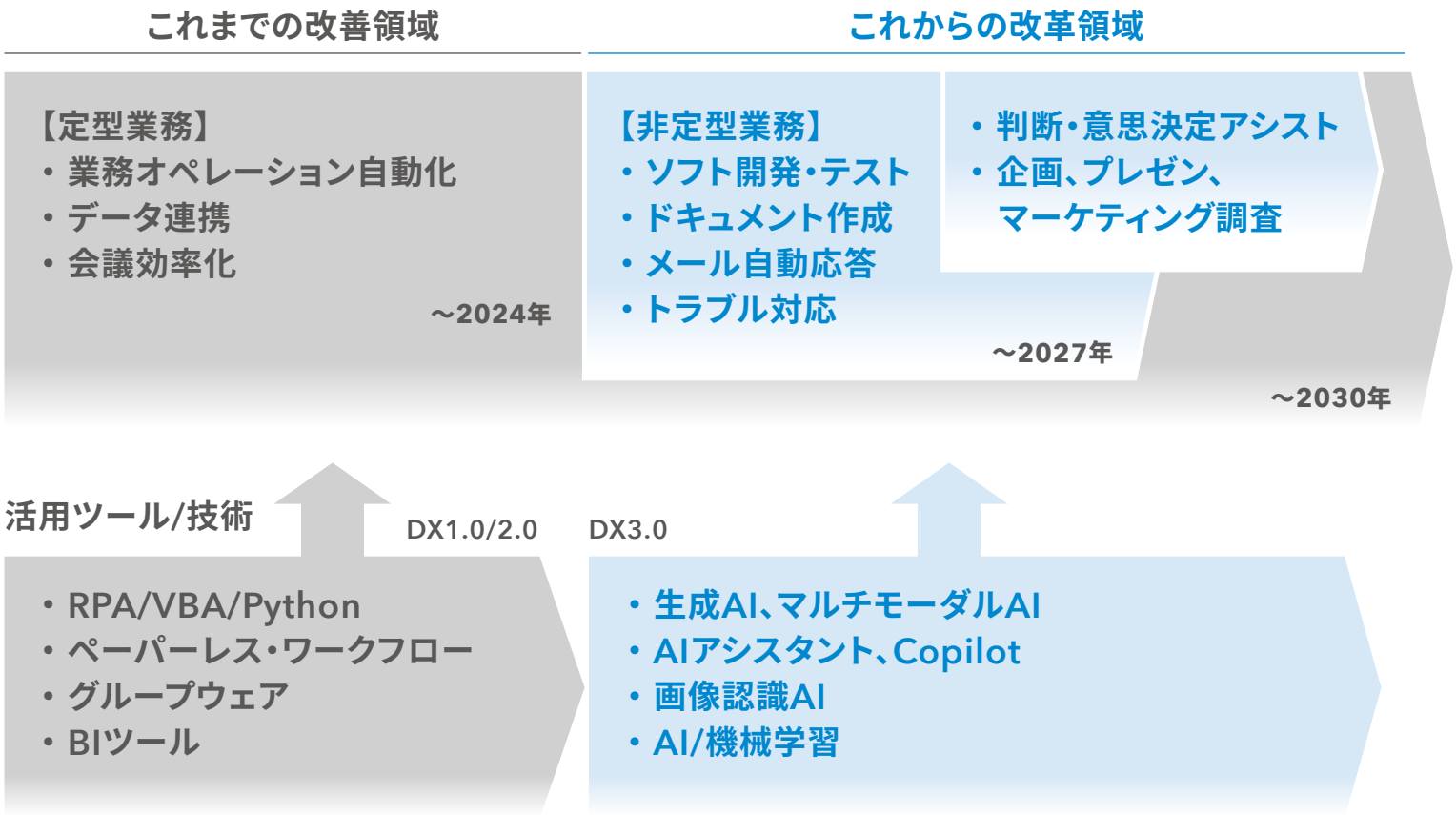
②エンジニアリングDX

エンジニアリングチェーン全体のDXを推進し、高い顧客価値を提供するスマートモーションコントロール製品を高QCD開発パフォーマンス（高品質、低コスト、短納期）で実現します。



③間接業務DX

これまでの業務改善は、業務の自動化やペーパーレス化など、主に定型作業の業務改善が中心でした。生成AIやAIアシスタントの登場により、これまで手付かずだった開発・判断・企画・調査などの非定型業務のAIアシストや自動化が可能となりました。これらの積極活用により圧倒的効率化とスピード化を図ります。

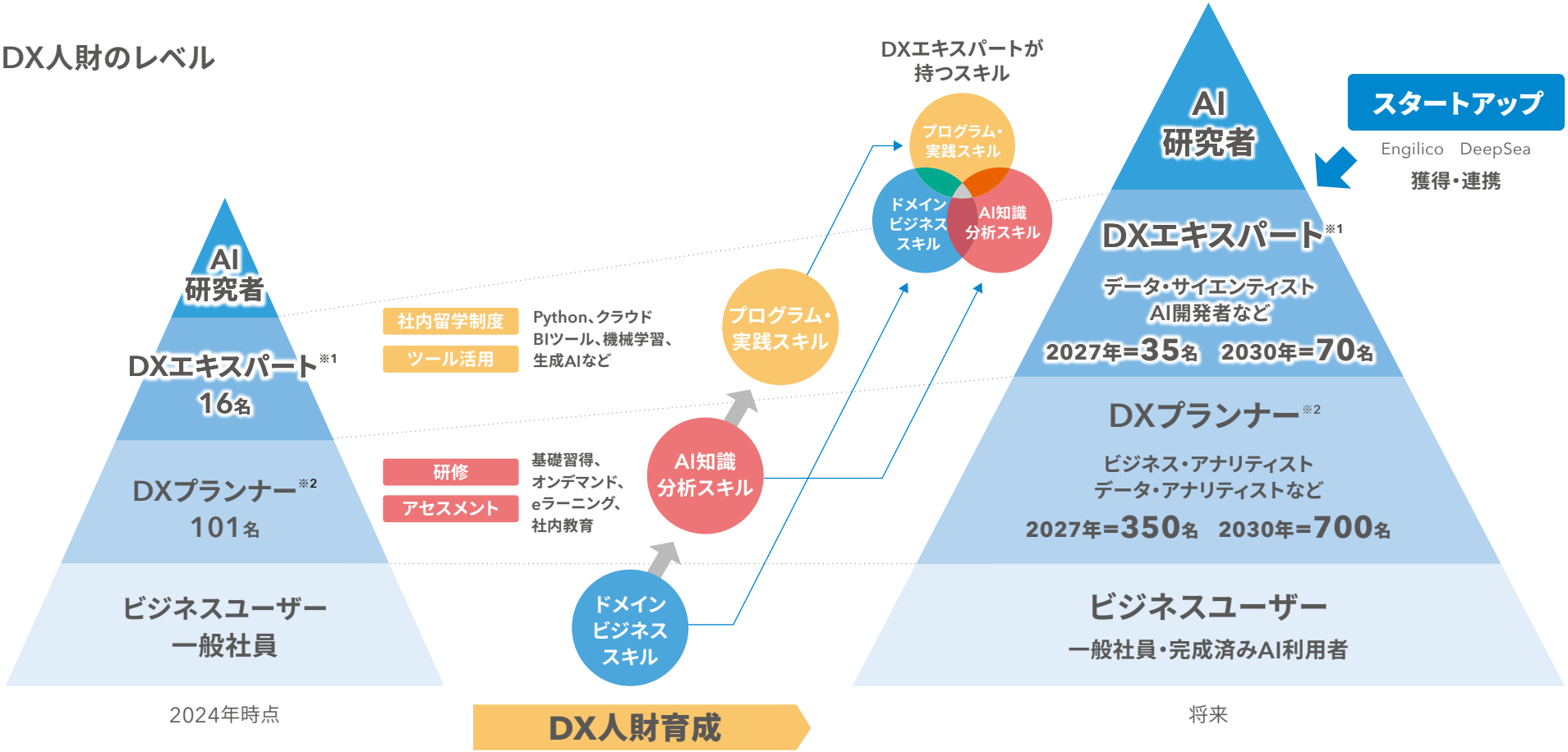


DX1.0：デジタイゼーション／ DX2.0：デジタライゼーション／ DX3.0：デジタルトランスフォーメーション

① DX人財育成

DX推進に必要な人財育成に取り組みます。当社では、社内のドメイン知識を保有したビジネスユーザーに、各種DX教育を実施することで、DXプランナー、DXエキスパートへの育成を推進しています。また、必要に応じて、スタートアップへの出資・M&Aを通じて、DXエキスパートを獲得・連携します。
育成したDX人財は、当社のDXスキルマップを定義し、タレントマネジメントシステムでの管理・可視化を推進します。

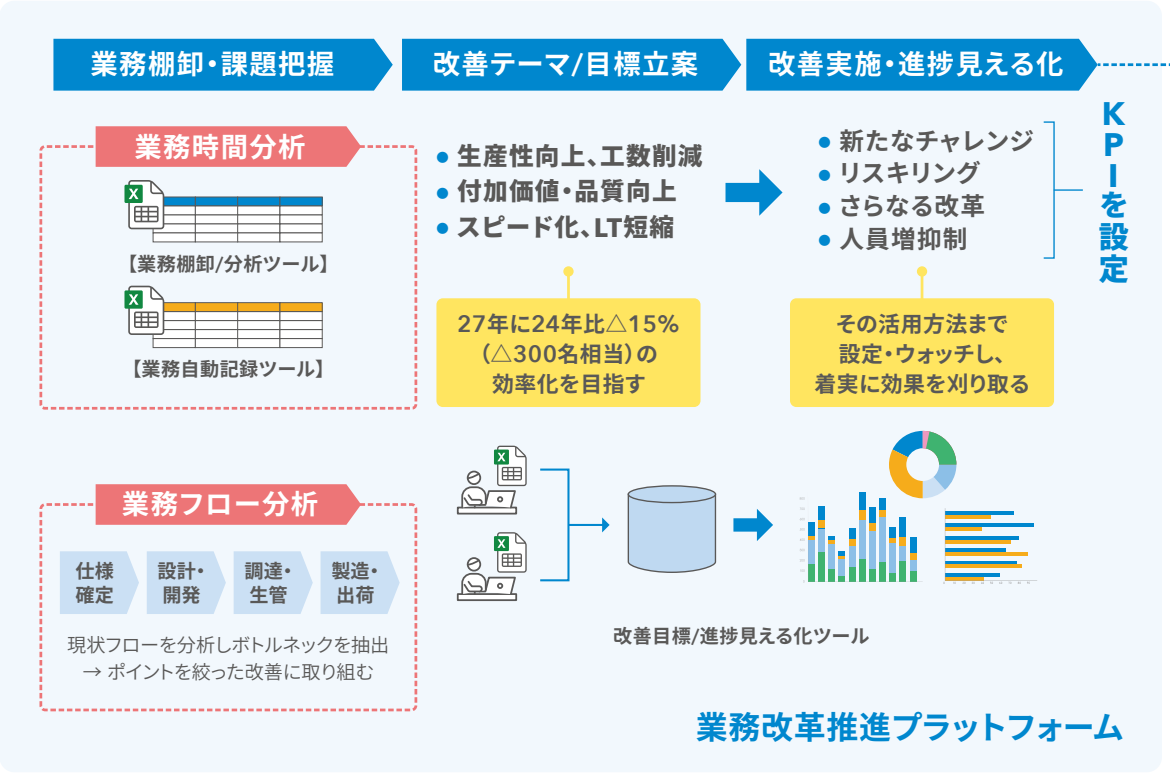
DX人財のレベル

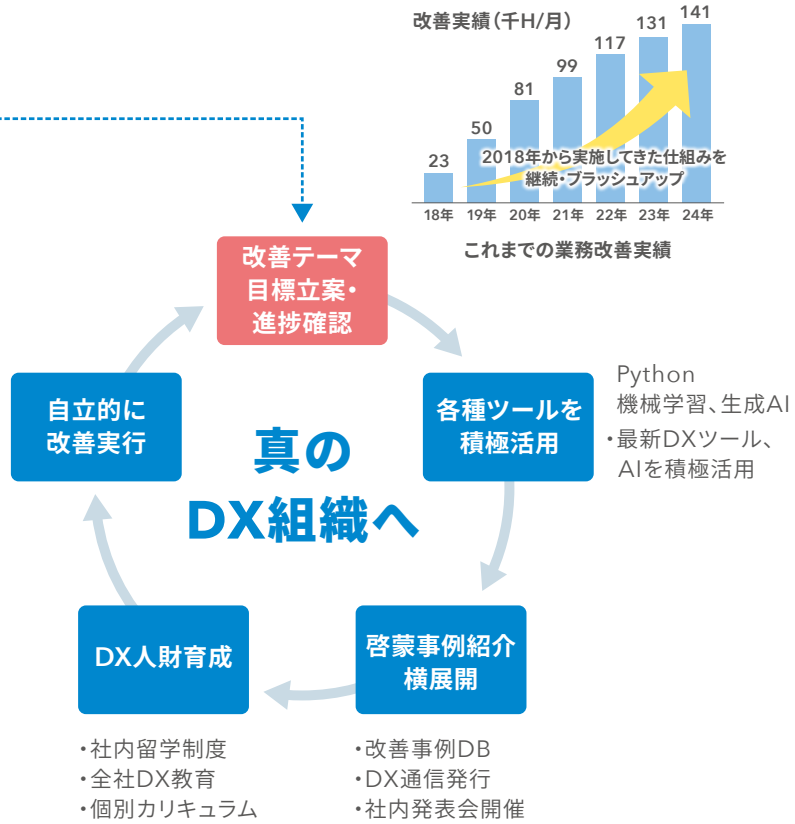


※1 DXエキスパート：社内の製品知識に加えて、DX知識の習得・実践により、自らプロダクト・プロセスイノベーションを実現できる人財
※2 DXプランナー：各部門において、DXに長け、自律的にDXを推進できる人財

②変革意識の醸成

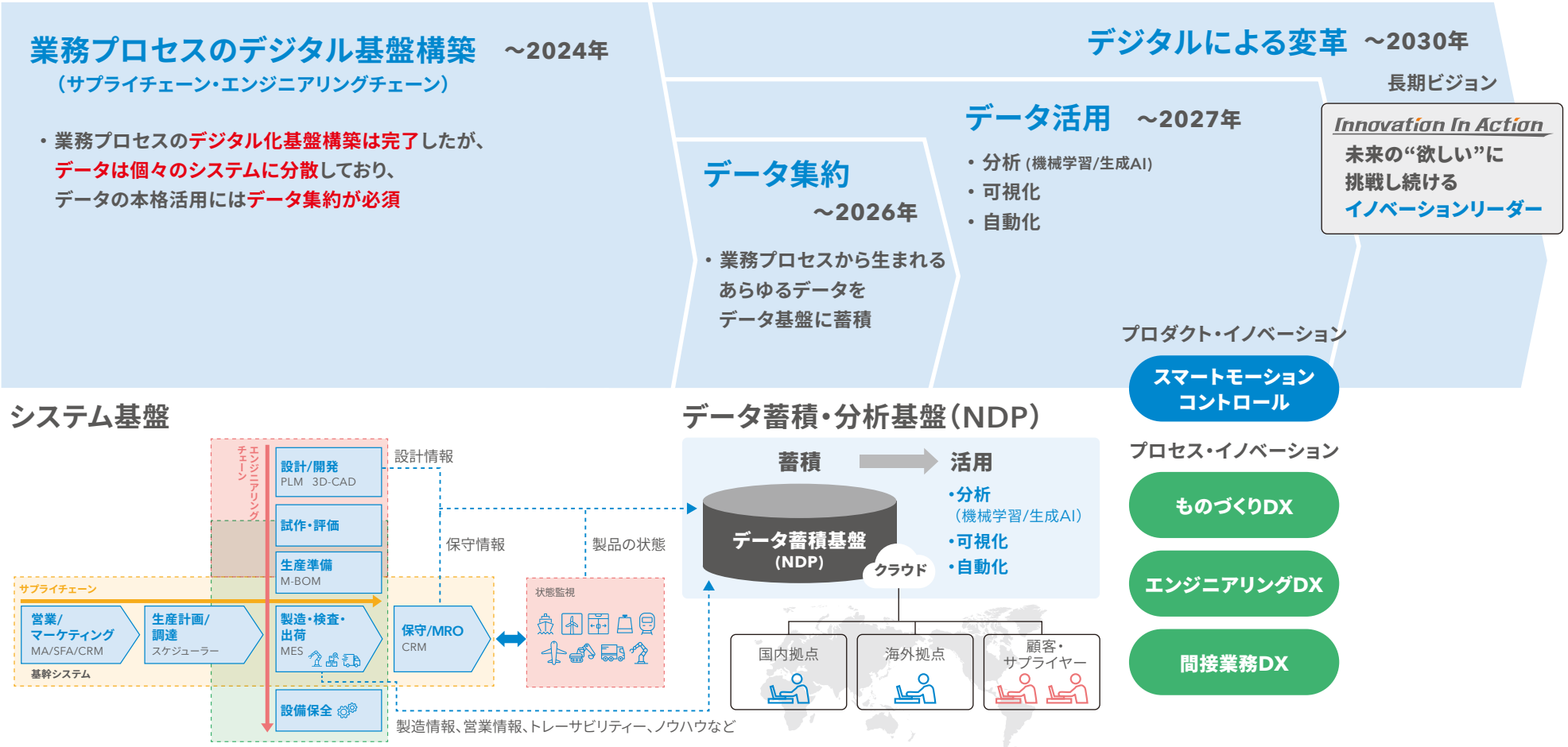
DXの達成にはD（Digitalツール）だけでなく、X（Transformation= 意識改革）が重要であるという考えのもと、2018年から実施してきた全社業務改革を継続することで変革意識を組織文化として根付かせます。





4. デジタル基盤構築・強化

DXを支えるデジタルインフラ、データ蓄積・分析基盤を構築・強化します。業務プロセスや製品、サービスから生まれたデータをデータ蓄積・分析基盤（NDP：Nabtesco Data Platform）に集約し、可視化・分析により“意思決定のスピード化・効率化・品質向上”が実現できるデータドリブン環境を整備します。



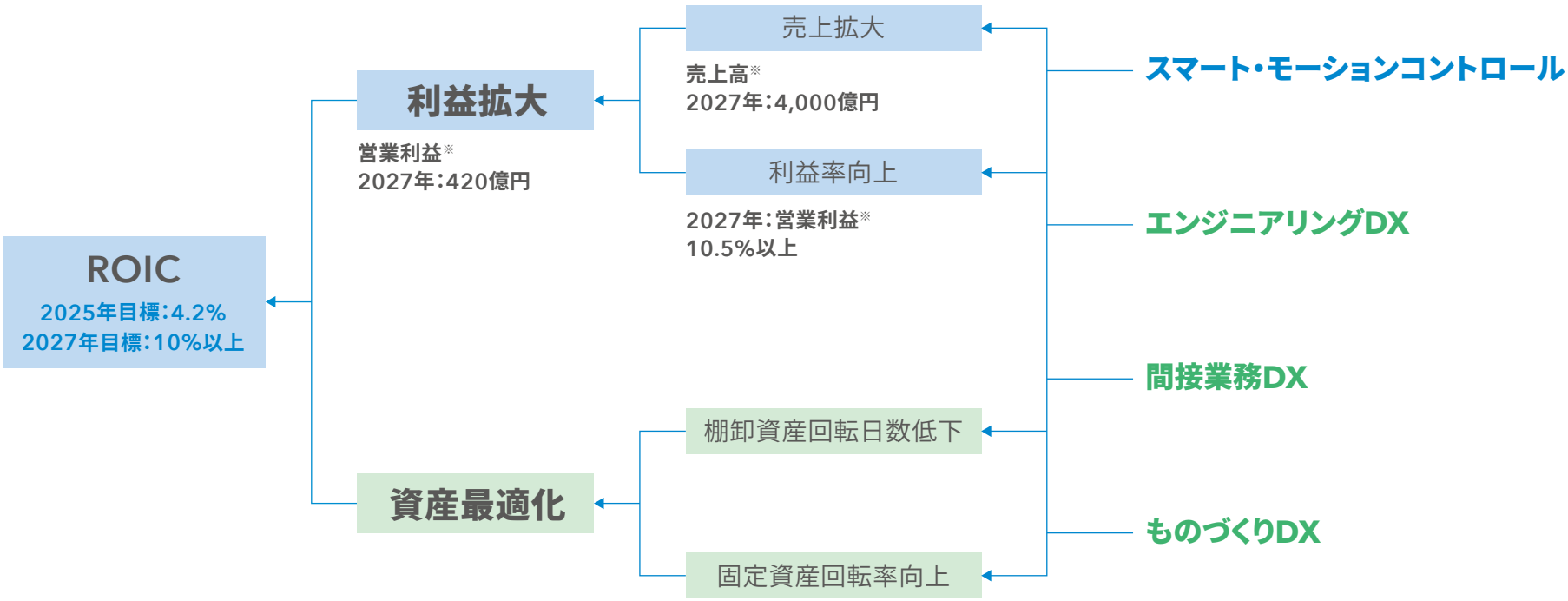
情報セキュリティにおける取り組み

当社グループは、昨今のサイバーセキュリティリスクの増大に対応し、グループ全体の情報セキュリティレベル向上を目的として「情報セキュリティ委員会」を設置し、情報セキュリティに関する基本方針の策定、セキュリティ対策のレベル向上、および重大なセキュリティ・インシデントへの迅速な対応を行っています。

➡ 情報セキュリティマネジメント参照（https://www.nabtesco.com/about/sustainability/s-022/）

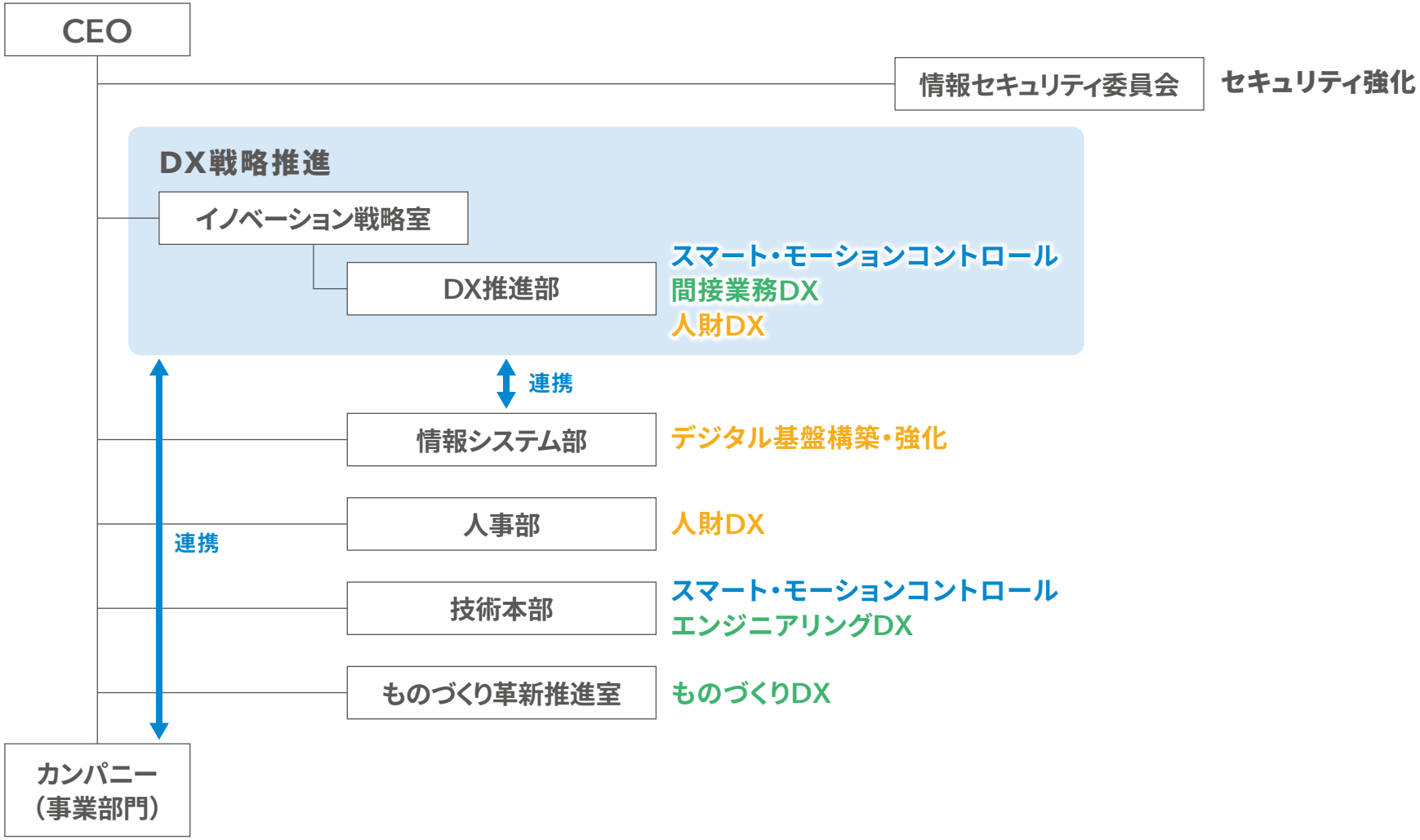
取り組みに対する目標指標

中期DX戦略の各種取り組みに対する指標を以下の通り定め、これらの進捗を管理していきます。



DX人財育成	**DXエキスパート**:2024年 16名 → 2027年目標 35名　2030年目標 70名 **DXプランナー**　:2024年 101名 → 2027年目標 350名　2030年目標 700名以上

※2027年の売上高、営業利益、営業利益率は参考値として 開示しています。

中期DX戦略の推進体制

中期DX戦略における各種アクションを推進するための体制は以下の通りです。